

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	エニグマ	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.500	△RG	0.052	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

**テストボール：エニグマ**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  5 インチ

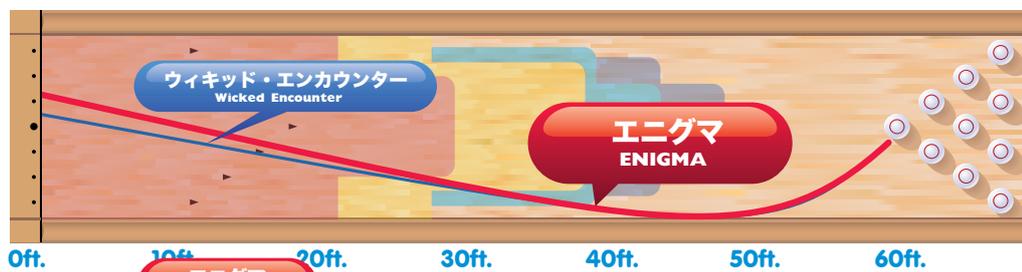
表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

**比較対照ボール：ウィキッド・エンカウンター**

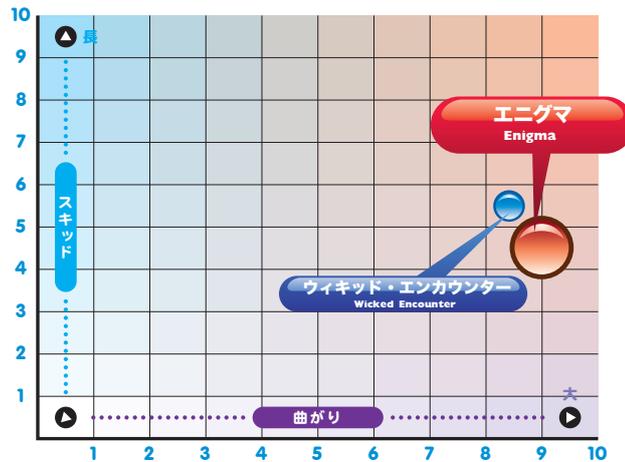
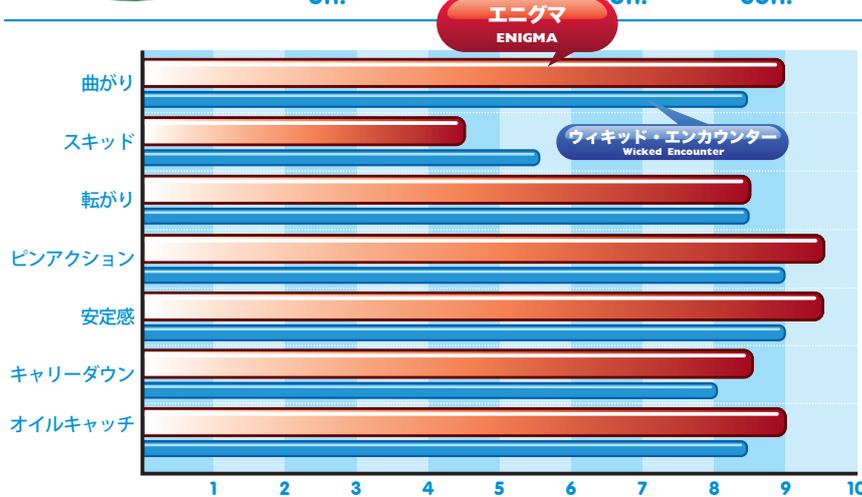
フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  5 インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

**ボールの評価**

ミディアムコンディションを制覇するEncounter、安定感とコントロール性能に秀でたDark Encounter、攻撃的に出し戻しのラインを攻めるWicked Encounter。コロムビア社の威信にかけ、各々の領域で必ず結果を残すことを使命とされたEncounterシリーズは、新たなステージを見据え動き始めました。そして今回、Wicked Encounterのような先で動くイメージをそのままよりオイリーなコンディション用に仕上げられた”ENIGMA”をご紹介します。

ENIGMAの第一印象は、「かなりキャッチしそう」なイメージがあり、強いカバーストックのコンビネーションで構成されているのが見た目で見られました。正直期待などはなく、「ただ単なるキャッチ系のボール」だと思い投球し始めて、良い意味で想像を外されました。キャッチ系のボールであることに間違いはなく、直進力を得るためのオイルは相応に必要ですが、バックエンドにかけて減速を辿るのかと思いきや、かなり強くピンヒットまで動くイメージがリアクションとして感じられたからです。ダラダラと動くイメージはなく、ややシャープに動こうとする感じは、手前のキャッチ感からは想像がつきにくく、早目のコンディションでは気持ちよく曲りを楽しむことが出来ました。イメージからするとWicked Encounterの先での動きをやや大人しくして、オイルに対してかなり強くしたという、想像が付きやすいかもしれません。良いイメージを感じたのもEncounterシリーズでのミッドエリアからのコントロール性能とWicked Encounterのような先での動きが特徴的に表れ、攻撃的にラインを攻めることができる性能を二分し、それにキャッチ力を強められたこと。シリーズ最大級の重厚な低いピンアクションを従え、今期ミディアムヘビー以上のコンディションでBEST YEARの称号を目指すボールとして恥じない圧巻の性能です。

**特記事項**

**Encounterシリーズの後継機として発売されるENIGMA。キャッチ系カバーを纏い、Encounterのコントロール性能とWicked Encounterの先の動き双方を兼ね備えた、ピンアクション重厚な性能です。**